



雪解け塚の近くだと思われる場所。左がお坊さんのお墓右が仏さま

雪解け塚の近くだと思われる場所。左がお坊さんのお墓右が仏さま

大きな穴に住む白へびは、

雪解け塚の場所にはお坊さんのお墓がある。民話のなかで白へびがいた松の木があったかは分かっていない。

民話の里、長福寺

かつては城が存在

広大に広がる三番瀬(こま)ホンビノス貝などがとれる

長福寺は平安時代の円融天皇(第64代天皇・在位969~984年)の時に創設された。鎌倉時代に入り、守護・地頭を設置した時期には、すでに夏見の地が荘園であったことで、長福寺が夏見の地名由来にとっても深い関係があった。後に永祿年間(1558~1569年)夏見の領主であった夏見加賀守政芳が現在の長福寺を再興した。

なお、この地域には白へびの民話がある。「お寺の近くには『雪解け塚』と呼ばれる小高い塚に立派な松の木が生えていた。根本の

三番瀬の魚、幕府に献上



三番瀬は東京湾の一部で、市に面している。2025年8月9日三番瀬におとす志野、市川、船橋の4つの

時代と共に変化も

船橋市内の児童が、地元で伝わる民話「雪どけ塚の白へび」をテーマに取材や写真撮影など新聞制作に挑戦した。日本財団などオールジャパンで推進する「海と日本プロジェクト」の一環で、国内に残された海にまつわる「民話」「伝承」を選定し、子どもがさらに次世代へと伝える機運醸成を狙っている。船橋市立船橋小学校5年の仲島誠人さんが執筆した紙面を紹介する。

三番瀬は、戦後の高度経済成長の中で埋め立てられてきた。現在でも漁業は盛んにおこなわれ、栄養豊かな浅瀬ではアズキやカレイなどの稚魚が育ち、成長した魚たちは、

漁が広がると埋め立てられてきた。現在でも漁業は盛んにおこなわれ、栄養豊かな浅瀬ではアズキやカレイなどの稚魚が育ち、成長した魚たちは、

灯明台、漁師の道しるべ

海の安全を守る

灯明台は、和洋折衷の木造灯台で、千葉県指定有形民俗文化財になっている。船橋大神宮の灯明台は、昔、漁師の道しるべとなっていてその光は、海上約6マイル(約9.7キロメートル)まで届いたといわれている。

かつては江戸湾の海上安全の目印として利用された。戊辰戦争で焼失。その後、1880年に地元の寄付で再建された。国内で初めて石油ランプと錫製反射鏡を設置した



仲島誠人さん

編集後記

新聞を書くことは面白い

船橋市立船橋小学校5年 仲島 誠人さん

僕は前回も新聞コンクールに参加して前回には知らなかったことありびっくりしました。あといいところもあり今回は、灯明台にいけませんでしたが前回行っていいのでまた行ってみたいです。

来年も参加したいです。あと僕が書いた記事をたかさんの人に読んでもらいたいです。

巻き網漁や底引き網漁で多く水揚げされている。貝類やノリの養殖も船橋の漁業の特色のひとつになっている。

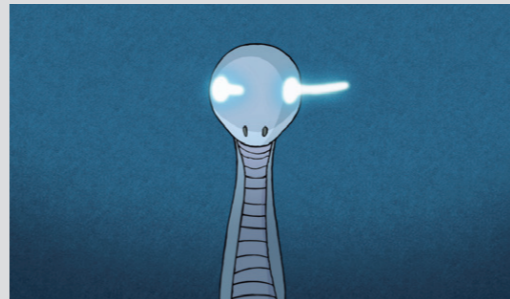
昔は三番瀬で漁をしていた人は、月数回、魚を江戸幕府に献上していた。これは徳川が当地へ来たときに魚を献上して以後、通例になったのだという。ちなみに生き物はどれくらいいるかという市や自治体やNPOなどが調べた結果魚が約60種類、底に約200種類、鳥類は千葉県野鳥の会調べたところ約100種類だ。

ちなみに在来種や外来種もいる。外来種は外国から来た外来種であるが国内の生き物でも外来種とも言



海と日本プロジェクト

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進している。



「雪どけ塚の白へび」のワンシーン

雪どけ塚の白へび

昔、夏見城を囲む土塁の近くに「雪どけ塚」と呼ばれる不思議な小高い塚があった。松の木の根元の穴に住む白へびは夜になると姿を現し、光る目の美しさや、やさしく気品のあるたずまいで村人を魅了していた。ある日、出漁していた漁師が嵐に遭い、沖に流された。遠方に見つけた青い光を白へびの目だと信じて死に物ぐるいでかいをこぎ続けた…。

